

光村図書教材系統表

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと(説明文)	読むこと(文学)	学習用語
1年	体験を話す【おはなし きいて】 ・体験したことを三文程度で話す。 ・物(物の絵など)を見せながら話す。 ・聞き手の方を向いて顔を上げて話す。 ・丁寧な言葉で話す。 ・話している友達を見て、終わりまで聞く。 ・友達の質問を聞いたり、自分で質問したりする。	よく見て書く【しらせたいな、見せたいな】 ・対象をよく見て、見付けたことを絵と簡単な語句で書く。 ・書き出した語句をもとに、対象の特徴を説明する文章を書く。 かるたを作る【あつまれ、ふゆの ことば】 ・書くために必要な言葉を集める。 ・集めた言葉を使って短い文に表す。	説明的文章を読む【みいつけた】 ・何と何が書いてあるかをとらえる。 ・体験と結び付けて読み、感想を発表する。 比べて読む【じどう車くらべ】 ・一つ一つのまとまりごとに、「しごと」と「つくり」を読む分ける。	お話を楽しむ【ゆうだち】 ・だれが出てきたか、だれが何をしたのかをとらえる。 ・好きなところを声に出して読む。 声に出して読む【くじらぐも】 ・友達と声を合わせて読む。 ・動作化などをして想像を広げる。	＊題名 ＊作者 ＊訳者 ＊昔話
	事物の説明をする【これは、なんででしょう】 ・物の特徴を思い出して問題を作り、聞き手に分かるように話す。 ・分からないことを尋ねたり、これに答えたりする。 ・やり取りを聞いて答えを考える。	経験したことを報告する【いい こと いっぱい、一年生】 ・書くために必要な事柄を思い出す。…うれしかったこと／楽しかったこと／驚いたこと／できるようになったこと／新しく知ったこと ・事柄の順序を考えて、読む人に分かるように書く。	違いを考えて読む【どうぶつの 赤ちゃん】 ・特徴の違いなどを考えながら読む。	昔話を読む【ためぎの糸車】 ・場面の様子や人物の行動に注意して読む。 ・音読する。絵を描く、本文にない言葉を想像するなどして楽しむ。 好きなところを探して読む【だって だつての おばあさん】 ・登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ・文章の中の好きな言葉や文を書き抜く。	＊質問
2年	連絡する【ともごさんは どこかな】 ・大事なことを落とさずに聞く。 ・単語を聞いて書く。 ・大事なことを落とさずに話す。	書くことを集める【今週のニュース】 したこと／見たこと、見つけたもの／聞いたこと／季節を感じる こと など 観察して書く【かんさつ名人に なるう】 ・日付を書く／主語(対象)を書く／様子を詳しく書く ・丁寧に観察する。…大きさや形、色を見る／数を数える など お話を書く【お話の さくしゃに なるう】 ・「初め」「中」「終わり」の構成で書く。 ・「人物の名前」「人物がすること」「出来事(事件)」「人物が話した言葉(会話)」「題名」	説明的文章を読み、考えをもつ【たんぼほの ちえ】 ・時を表す言葉に着目して、順序をとらえながら読む。 ・「ようす」と「わけ」を読み分ける。 ・考えたことを表すときは、「初めて知った」「不思議だなと思った」「おもしろいと思った」などの表現を使う。 ・わけを表す言い方…「— のです。」「— からです。」	音読する【ふきのとう】 ・時・場所・人物に注意して、おおまかな話の流れをとらえる。 ・繰り返しやりズムを楽しんで音読する。…姿勢／口の開け方／声の大きさ／読む速さ 感想を書く【スイミー】 ・人物をとらえ、行動に着目して読む。 ・どんな出来事が起こり、どうなったかをとらえる。 ・「どきどきした」「すっきりした」「心に残った」などの表現を用いて感想を書く。	＊音読 ＊人物 ＊順序 ＊わけ ＊丸、点、かぎ ＊記録 ＊連絡 ＊感想 ＊「初め」「中」「終わり」
	発表の組み立て【あったらいいな、こんなもの】 話し初め…文章の「題名」のように、なんの話かを言う。 話の中心 ・考えたものの説明(形態と働き) ・考えたきっかけやわけ 終わり…聞く人が、これで終わりだと分かるように言う。	紹介文を書く【友だちのこと、知りたいな】 ・思い出したり尋ねたりして書くことを集める。 ・きいたことは「—そうです。」という言葉を使って書く。 分かりやすく説明する【おもちゃの作り方】 ・「しかけカードの作り方」で見つけた説明の工夫を生かして書く。	感想を書く【どうぶつ園のじゅうい】 ・順番をとらえながら読む。 ・「しごと」と「わけ」を読み分ける。 ・引き付けられたところを感想として書く。 初めて知ったことに驚く／不思議に思ったり気になったりする／もつと知っていた いなあと思う	音読劇をする【お手紙】 ・だれが、いつ、どこで、どんなことをしたか、だれが何を言ったかをとらえる。 ・文章に即して正確に、また気持ちを想像して的確に音読する。 人物と自分を比べて、感想を書く【わたしはおねえさん】 ・人物のしたことと心に残った言葉や文を、カードに書き抜く。 ・心に残った理由を書く。 ・自分ならどうするかを考える。 など	
	詳しく尋ねるときの言い方【友だちのこと、知りたいな】 「いつからですか。」「どうしてですか。」「どうやって、—ですか。」「どれがいちばん—ですか。」	詩を書く【見たこと、かんじたこと】 ・様子を表す言葉を使って書く。	分かりやすい説明のしかた【しかけカードの作り方】 ・初めにできあがりの写真を示している。 ・「まず」「それから」など、手順に沿って書いている。 など		
	まとまりを意識して話す【きみたちは、「図書館たんていだん】	経験したことを報告する【楽しかったよ、2年生】 ・経験したことから書く事柄を決め、必要な事柄を集める。 ・事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ・文章を読み返す習慣をつける。	知っていることや考えたことを発表する【おにごっこ】 ・「初め」「中」「終わり」でおおまかな内容をとらえる。 ・自分が知っていることと比べながら読む。	読んだお話を紹介する【スーホの白い馬】 ・「あらすじ」とはどういうものかを知る。 ・あらすじをまとめるために、「だれが出てくるか」「だれが、いつ、どこで、何をしたか」「どんな出来事があったか」「どのように終わったか」を読む。 ・強く心に残ったことが伝わるようにあらすじをまとめる。	
3年	よい聞き方、よい話し方【よい聞き手になろう】 <聞き方> ・話し方が話したいことに沿った質問をする。 ・ほかの聞き手のためにもなる質問をする。 ・自分だったらと考えたり、自分の知っていることとつなげたりして聞き、質問したり感想を言ったりする。 ・ほかの人の発言も、よく聞く。 <話し方> ・中心(いちばん話したいこと)をはっきりさせる。 ・「いつ」「どこで」「だれが」など、大事なことは落とさない。	報告する文章を書く【気になる記号】 ・取材(実地調査)してカードに書く。 ・報告書の形に添って、一段落一事項で文章を書く。 調べたきっかけや理由／調べ方／調べて分かったこと(考えたことを合わせて書くこともある。)／感想 手紙の型【手紙を書こう】 ①初めのあいさつ／②本文…その手紙で伝えたいこと。手紙の用件(お礼、お願い、案内など)によって、内容が変わる。／③結びのあいさつ／④後付け…日付、自分の名前、相手の名前の順。／はがき、封書の宛名の書き方	文章と段落【イルカのねむり方／ありの行列】 ・「段落」とはどういうものかを知る。 ・文章は、普通、「初め・中・終わり」の大まかなまとまりに分かれている。 ・大きなまとまりは、一つの段落でできていることも、幾つかの段落が集まってできていることもある。 ・一つ一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりの内容が書かれている。 ・「問い」と「答え」、その間を読み取る。	様子が分かるように音読する【きつつきの商売】 ・「場面」「登場人物」について知る。 ・書かれていることをもとに、場面の様子を思い浮かべながら読み、それを声に表す。 ・登場人物のいる場所や細かな動き、聞こえる音、見えるものなどに気をつけて、様子が分かる言葉が聞く人に伝わるようにする。 ・音読の留意点…強弱／速さ／声の高さ／間の取り方 人物に着目して読む【海をかつとばせ】 ・人物の会話や行動、気持ちなどを、自分と比べながら読む。 ・登場人物のことを考えながら読むことは、自分について考えることにもなる。 ・人物と比べて考えたことを話すときの型を知る。	＊場面 ＊登場人物 ＊段落 ＊問いと答え ＊まとまり ＊短歌・俳句 ＊文語 ＊報告 ＊句読点 ＊筆者 ＊引用
	話し合いをする【わたしたちの学校行事】 <参加者> ・司会に指名されてから話す。 ・考えを先に言い、考えた理由を言う。 「どうしてかというと、—。」「理由は、—。」「—からです。」 ・友達の意見と同じところ、違うところをはっきりさせて、意見を言う。 賛成／反対／付け足し <司会者> ・何について話し合うかと、話し合う手順を確かめる。 ・発言者を指名したり、順番を決めたりする。 ・ととところ、それまでに出た意見を整理する。 など	例を挙げて説明する【食べ物のひみつを教えます】 ・関係のあるものを線でつなぐ(マッピング)。 ・「すがたをかえる大豆」の構成にならって書く。 ・絵と文を対応させて書く。 物語を書く【物語を書こう】 出来事を中心に、「いつ」「どこで」などを書き出し、考えを広げたり関係付けたりする。(マッピング) ①始まり ②出来事(事件)が起きる ③出来事が変化する ④結び—出来事が解決する—その後	説明の工夫をとらえる。【すがたをかえる大豆】 ・普通、段落は、幾つかの文が集まってできている。 ・段落に何が書いてあるかを素早くつかんだり、短くまとめたりするときは、その段落の中でいちばん中心になる文を見つけるようにする。 ・繰り返し出てくる言葉や、問い・題名とつながりのある言葉などに気をつけると、中心になる文を見つけやすくなる。 ・書かれていない「問い」を見つける。 ・「中」に例が並んでいる構成を知る。	場面の移り変わりを読む【ちいちゃんのかげおくり】 ・場面を追うごとに、どんな出来事があるか、何が変わるのかを考えながら読む。 ・文章に書かれていなくても、その間に過ぎた時間や、あったことなどを想像する。 ・「初め・中・終わり」の構成で感想文を書く。 民話や物語の組み立て【三年とうげ】 多くの民話・昔話や、物語は、次のような組み立てになっている。 ①始まり ②出来事(事件)が起きる ③出来事(事件)が変化する ④結び—出来事(事件)が解決する／その後	＊連 ＊インタビュー ＊発表メモ ＊司会 ＊賛成・反対・付け足し ＊民話
	発表する【わたしたちの学校行事】 ・簡単な構成メモ、発表メモを作る。 など				

	<p>資料をもとに話す【しりょうから分かったことを発表しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに、話題をはっきりさせる。 ・聞き手に資料を見せたらうときは、そのための時間をとる。 ・資料の名前と、いつ、だれが、なんのために作成したものなどを明らかにする。 ・資料のどの部分から、何が分かったのかを明確にする。 指し示す／「〇〇を見てください」など ・グラフを説明するときの言葉 「—中—」「いちばん多いのは(少ないのは)—」 など ・資料から分かること、自分が考えたことを分けて話す。 	<p>報告書にまとめる【本で調べて、ほうこくしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書(文献調査)の型に沿って書く。 ・題名…問いをそのまま書く。／初めに…調べること(問い)、調べることにした理由やきっかけ、調べ方。／分かったこと…幾つかある場合や長い場合には、内容ごとに分ける。／終わりに…問いに対する答えのまとめ。調べる活動を通して考えたこと。／(使った本)題名・筆者名・出版社・発行された年を書く。 ・文献を参照・引用して書く。 	<p>小見出しをつける【かるた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小見出しをつけるときは、そのままとりの内容を短い言葉で言い換えたり、本文中にある大事な言葉を用いたりする。 ・小見出しを順に見ていくと、その文章に書いてあることの大体と、文章の組み立てをとらえることができる。 ・複数の観点から物事を説明する文章構成を知る。 	<p>登場人物の人柄や気持ち【モチモチの木】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文には、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多いので、その人物の人柄や気持ちがよく分かる。 ・地の文でも、行動を表しているところや様子や表情を表しているところには、人物の人柄や気持ちが表れていることがある。 ・登場人物どうしの会話や行動を比べると、人柄がよく分かることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> * 小見出し * こそあど言葉 * 事典・図鑑・科学読み物 * 目次・索引 * 会話文と地の文 * 語り手
4年	<p>話し合いのしかた【よりよい学級会をしよう】</p> <p>(司会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前もって、時間配分などの進行計画を立てておく。 ・計画に合わせて進められるように、時間を見ながら声をかける。 ・意見が出るようなきき方を考えたり、グループで考える時間をとったりする。 ・途中で、これまでにしている意見を整理したり、整理を確かめたりする。 ・黒板を上手に使って意見を整理する。 ・決まったことを確かめる。 <p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的と進め方を確かめる。 ・「賛成」「反対」の立場をはっきりさせて理由とともに話す。 ・これまでの発言との関係を初めに言う。 	<p>報告する文章を書く【読書生活について考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートをとり、表やグラフにまとめる。 ・表やグラフなどを入れて文章を書く。 ・型に沿って報告書を書く。 <p>新聞の特徴／作り方【新聞を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴…幾つもの記事が集まってきている／普通、いちばん知らせたい記事が、初めに大きく載っている など ・作り方…①どんな新聞にするかを決める／②載せたい内容を決める／③記事の下書きをする／④割り付けをする／⑤新聞に仕上げる <p>本を紹介する【本は友達】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作る。…キャッチコピーを考える／絵や図を使う／文字の大きさや配色を考える など 	<p>考えを述べる文章【大きな力を出す／動いて、考えて、また動く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを強く読み手に印象づけられたいときは、それを述べた段落を文章の始まりの部分か終わりの部分のどちらかに置いたり、両方に置いて繰り返したりする。 ・自分の考えに共感してもらうためには、考えを述べるだけでなく、ほかの段落で、考えを裏づける事例やそう考える理由などを述べる。 	<p>場面の様子・登場人物の気持ちを音読で表す【白いぼうし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだときに受けた印象が、どの言葉や表現からくるのかを考えて音読する。 ・周りの様子が聞き手に分かるためには、どの言葉や文をはっきり読めばいいか、登場人物の人柄や気持ちを表すためには、どの言葉を、どんな声の調子で読むのがいいかを考える。 ・作品の特色が生きるように、言葉や表現に気をつけて丁寧に読み、工夫する。 <p>特徴的な言葉に着目して読む【一つの花】</p> <p>作者が特別な意味をこめた言葉は、次のような使われ方をする。 題名に／繰り返しして／中心となる人物の会話の中で／出来事が起こったり解決したり、人物の気持ちが変わったりする、重要な場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 提案者 * アンケート * 表・グラフ * 作品の特色 * 事実・説明・筆者の考えの関係 * 根拠／知識・技能 * 新聞／割り付け
	<p>資料の分類・整理【だれもがかかり合えるように】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を分類・整理することで、それまでばらばらで見えなかった事実気づく。 ・集めた資料の中に、自分の課題にとって大事なものとそうでないものがあることに気づく。 <p>調べたことを発表する【だれもがかかり合えるように】</p> <p>(話し手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを活用して内容を整理し、話したいことを明確にする。 ・絵を示しながら話したり、間を取ったりして、大事な部分を強調する。また、聞き手の興味を引く話し始めを工夫する。 ・何を調べたのか、どうやって調べたのか、調べて分かったことは何かを、伝わるように話す。 <p>(聞き手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見や感想、質問などをメモしながら聞く。 	<p>写真と文章で説明する【「仕事リーフレット」を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と文章を対応させて書く。 ・全体の説明と、ある部分に着目した説明とを書き分ける。 <p>感想文を書く【三つのお願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初め…一文の感想や、その感想を引き出した体験など。 ・中…感じたことや考えたこと(本文を引用するなどしながら詳しく)。 ・終わり…読んで自分の中で変わったことや、これからのこと。 	<p>説明の工夫をとらえる【アップとルーズで伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比されている段落、それまでの叙述をまとめている段落など、段落と段落は、互いに関係している。 ・ままとりごとに何が書かれているかをとらえ、さらに、ままとりどうしがどんな関係かを考えると、文章の組み立てがよく分かる。 ・写真と文章の対応を考えながら読む。 	<p>読んで話し合い、感じ方の違いを知る【ごんぎつね】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のだけかと自分を重ね合わせたり、書いてあることを、知識や経験と結び付けたりしながら読む。 ・感じたことや考えたことについて、友達と交流すると、自分一人では気づかなかったことを教えられ、物語の読み方が深く豊かになる。また、友達や自分自身のもの見方・考え方が改めて分かる。 <p>物語の感想文を書く【三つのお願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴をとらえて感想をもつ。…自分の知識や経験とつないだ感想／人物の行動や性格にかかわる感想 	<ul style="list-style-type: none"> * 分類・整理 * 場面の移り変わり * 感想の交流 * 人物の性格 * 段落どうしの関係 * 接続語 * リーフレット * 取材 * 感想文
	<p>聞きながらメモを取る【聞き取りメモの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のためのメモなので、きれいに書くことにより、後で見分けるように書く。 ・すばやくメモに取る必要があるので、単語だけを書く、記号を使う、箇条書きにするなど、工夫する。 ・聞き取れなかった部分は、空けておき、印を付けておき、後で質問する。 ・メモを読み返し、気がついたことを加えたり、整理したりする。 	<p>詩を書く【野原の仲間になって】</p> <p>「のはらうた」にならって書く。</p> <p>本を作る【「ことわざブック」を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞典や本でことわざについて調べ、自分なりのアイデアで本を作る。 ・調べて分かったことから考えたことを「後書き」に書く。 	<p>要約する【ウナギのなぞを追って】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や必要に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめることを要約という。 ・要約には、元の文章のどの部分を取り上げるかは、目的によって違う。 	<p>読後感がどこから来るのかを考える【初雪のふる日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面を読み返したり、作品の中に多く出てくる言葉や表現を確かめたりする。 ・使われている言葉どうしが響き合ったり、言葉と自分の経験は響き合ったりする中に、読後感をよび起こした、作品の秘密を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> * 要約 * 箇条書き * 聞き取りメモ
	<p>インタビュー【きいて、きいて、きいてみよう】</p> <p>(きき手—インタビューをする人—)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、話し手と話題について、簡単な下調べをしておく。 ・話し手の答えによって、新たに質問が浮かんだら、ほかの質問との関係、時間などを考えて質問する。 など <p>(話し手—インタビューに答える人—)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きき手が何を知りたいのかを考え、その答えを最初に話す。関連する内容は、答えの後に話す。 ・質問の意図が分からないときは、尋ね返したり確かめたりする。 ・数字、人や事物の名前などは、正確に答える。 <p>(記録する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点だけを書く、数字や具体的な名前などは正確に書く。 など 	<p>活動を報告する【次への一歩—活動報告書】</p> <p>①目標を設定し、②達成のための計画を立て、③実行し、④点検し、次への活動へつなげる、という活動を繰り返すうえで、報告書を書くことは、点検して次へ進むための有効な手段である。</p> <p>(活動報告書の構成)</p> <p>活動計画／活動報告／活動して考えたこと／今後の活動</p>	<p>報道記事の特徴【新聞を読もう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論を先に見出して示し、リード文から本文へと、次第に詳しく書かれている。(「逆三角形の構成」) ・取り上げる出来事について次のことが書かれている。 いつ／どこで／だれが／何をした／なぜ／どのように <p>要旨をとらえる【見立てる／生き物は円柱形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事柄、あるいは、それについての筆者の考えの中心となる事柄を要旨という。 ・筆者の考えは、文章の始まりやまともに直接的に書いてあることが多いが、それ以外の部分で、どのような事例や理由を述べているか、どのように考えを進めているかにも、筆者のもの見方・考え方が表れる。 	<p>4年生までの学習を確かめる【あめ玉】</p> <p>人物像と、人物どうしのかかわりに気をつけて読む【のどがかわいた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物は、一人一人違う性格をもち、人物どうしで気が合ったり合わなかったり、何かをきっかけに関係が変化したりすることを知る。 ・人物や人物どうしの関係を理解することが、現実世界での人間理解を助け、深めてくれることを知る。 <p>伝記を読む【百年後のふるさとを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語のように書かれている部分と、事実の説明や筆者の考えが書かれている部分を読み分ける。 ・自分の生き方とかかわらせて読み、考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 人物像 * 構成 * 編集(新聞の特徴) * 比べ読み * 要旨 * 「始まり・中(展開)・まとめ」 * 古典 * 伝記

5年	<p>討論をして考える【豊かな言葉の使い手になるためには】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分では気づかなかったものの方や、考え方を知る。 ほかの人の考えを知り、自分の考えを深める。 考えを出し合うことで、新しい別の考えを生み出す。 <p>〈グループ討論の進め方〉</p> <p>①司会を決める／②話題を確認し、一人ずつ考えを発表する／③互いの考えについて質疑応答をする／④意見を交わす／⑤最後に、司会がどのような意見が出たかをまとめる</p>	<p>考えをまとめて書く【豊かな言葉の使い手になるためには】</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさん情報の中から、共通していえることは何かを見つける。 報告するときは、共通していえることと自分の考えが分かるようにし、それを裏づけする引用部分が区別できるように書く。 <p>グラフや表を使って説明する【グラフや表を引用して書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> 何を表すグラフや表なのかを、まず述べる。 など 理由を裏づけるために資料を用いるときは、目的をよく考えて、目的に合った資料を探す。 など <p>提案書を作る【わたしたちの「図書館改造」提案】</p> <p>〈提案書の構成〉</p> <p>①問題点…問題点の整理／提案理由や提案の方向性</p> <p>②提案…内容の説明／具体的な提案</p> <p>③提案の効果…よさや、実現したときの効果など。</p>	<p>説明の工夫をとらえる【天気を予想する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学読み物などでは、図、表、グラフ・絵・写真などが説明に用いられることがある。 文章と照らし合わせながら、それらの資料が表している内容を読み取り、また、それを用いた筆者の意図も考える。 	<p>優れた表現を味わい、朗読する【大造じいさんとガン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語では、人物の行動、そのときの人物の様子、その場所の様子が、目に見え、耳に聞こえるように生き生きと描かれていることを知る。 優れた表現によって、直接書かれていない人物の深い心情や性格について想像する。 朗読について知り、自分なりの読み方を声に出して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 朗読 * 心情 * 情景 * グループ討論 * 情報の収集・整理 * 理由を裏づける資料 * 統計 * 提案書 * 十進分類法
	<p>事物や人物を推薦する【すいせんします】</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦するときは、その事物や人物について十分調べ、そのよさを整理し、求められていることを考えたうえで、推薦したい点をまとめる。 聞き手は、推薦したい理由がよく分かるか、納得できるかなどに気をつけて聞く。 	<p>物語を書く【物語を作ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真をもとに想像を広げて書く(マッピング)。 物語のイメージ、内容、おおまかな構成を考える。 表現を工夫して書く。 	<p>身近な例に置き換えて読む【ゆるやかにつながるインターネット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の説明や挙げている例を、自分の周りで起きていることに当てはめ、自分に関係あることとして受け止めながら読む。 具体例を自分で補いながら読むことで、共感や納得、新たな疑問が生まれ、自分の考えがより明確になる。 	<p>作品の特色をとらえる【わらぐつの中の神様】</p> <p>作品の特色は、次のようなところに表れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成 ーどのような場面が、どのような関係で描かれているか。 人物像ーどのようなものの方や考え方の人物が描かれているのか。(会話・行動や心情) 表現 ー場面の様子や人物を、どのような言葉で表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> * 書き言葉・話し言葉 * 共通語・方言 * 推薦
6年	<p>討論会をする【学級討論会をしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 議論の筋道に沿って発言する。 説得力のある話し方を工夫する。 意見を先に、理由を後に話す／体験や具体例を入れて話す 相手の主張や、質問に対する答えをよく聞き、それをふまえて発言する。 互いの立場の、いちばんの違いは何かを考えながら聞く。 	<p>パンフレットを作る【ようこそ、わたしたちの町へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット完成までの道筋を理解する。 相手の要求や条件に合う内容を考え、適切な方法で取材する。 著作権についての意識をもつ。 効果的な構成や材料の配置を考える。 引用したり自分で作成したりして、図などを用いて表現する。 	<p>筆者の意図をとらえ、自分の考えをもつ【感情／生き物はつながりの中に】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者が、どのような事実を例として挙げ、自分に考えの理由や根拠としているのかをとらえる。 文章を通じて読者に何を考えてほしいのか、どんな行動をしてほしいのかなど、筆者が文章を書いた目的を考える。 自分の知識や経験、読書体験に引き寄せて考える。 	<p>体験とつなげて感想を書く【カレーライス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物のだれかに自分を重ね合わせながら、その言動や心情を読む。 周りの人物との関係の中で、揺れ動いたり、変化したりする登場人物の心情をとらえる。 地の文がだれの視点で書かれているかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 視点 * 筆者の意図 * 討論会 * 漢詩 * パンフレット * 編集(構想・取材・構成・記述・推敲) * プレーンストーミング
	<p>意見を主張するスピーチ【「平和」について考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を、全体のどこで話すかを考える。 意見が説得力をもつための資料として、何を準備するかを考える。 全体のどこで、どのようにそれを伝えるかを考える。 意見が効果的に聞き手に届くようにするために、音声面で工夫する。 	<p>短歌を作る【たのしみは】</p> <p>意見文を書く【「平和」について考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「仮の要旨」を立てて調べた後、再度考えて要旨を確定させる。 実際にあったことや、それらの記録(具体例・引用など)と、自分の考えを区別して書く。 異なる考えや反論とそれに対する自分の考えも入れ、説得力を増す。 <p>〈意見を述べる文章の構成例〉</p> <p>①意見／②根拠となる出来事など／③予想される反論と、それに対する考え／④意見の繰り返し</p> <p>絵から読み取ったこと、感じたことを書く【この絵、わたしはこう見る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見える」「―かもしれない」などの、読み取ったことや感じたことを表す表現を用いる。 「―に目を向けると」などの、見る場所や見る方法を表す表現を用いる。 <p>考えをまとめて書く【本は友達】</p>	<p>筆者の説明のしかたについて考えながら読む【『鳥獣戯画』を読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の見どころやすばらしさについて書かれた文章には、筆者のものの見方が表れている。 「何を取り上げているか」「取り上げたものの、どこに目を向けて、説明や解説をしているか」「どのような言葉で評価しているか」に着目して読むとよい。 図版と文章を対応させながら読む。 	<p>作者の思いを考える【やまなし】</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名のつけ方、文章中の表現、構成、言葉の使い方のすべてから、作者の思いを推測し、考える。 作者の伝記や他の作品と重ねながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> * スピーチ * 意見文
	<p>聞く人の心に届くように、構成や話し方を工夫する【今、わたしは、ぼくは】</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチをするときは、「何を・なんのために・どのように」話すかを、事前にはっきりさせる。 「何を」は、伝えたいことを中心である。中心が明確に、印象深く伝わるように、他の材料を調える。 話し始めと結びを工夫して、全体の組み立てを考える。 	<p>随筆を書く【自分を見つめ直して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験や見聞した事実について、自分がそれをどのように感じたり思ったり、考えたりしたのかを整理して書く。 体験を意味づける。 	<p>例を補いながら読む【言葉は動く】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者が述べていることについて、具体的な例を体験から探して補う。 	<p>物語を読み、人物の生き方について考える【海の命】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物に寄り添い、日常生活では体験できない暮らしや出来事に出会うことで、ものの方や感じ方を広げる。 登場人物の人間関係や中心人物・周りの人物の生き方から学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> * 随筆 * 山場